

富谷市の概要



富谷市公式キャラクター ブルベリッ娘とブルピヨ

- ◆人口:52,215人(R5.3月末)
- ◆面積:49.18km²
- ◆高齢化率:22.3%
- ◆認定率:14.2%
- ◆独居高齢者:1,107人
- ◆保険料:5,750円(R3年度)
- ◆介護サービス状況
 - ・特養:4 ・老健:2 ・グループホーム:3
 - ・ケアハウス:2 ・有料老人ホーム:2
 - ・看護小規模多機能型居宅介護:1
 - ・小規模多機能型居宅介護:1
 - ・通所介護:8 ・通所リハ:3 ・訪問リハ:2
 - ・訪問介護:9 ・訪問入浴介護:1
 - ・訪問看護:1 ・短期入所7

生活支援体制整備事業の取組状況

配置状況等

- ◆第1層協議体:保健福祉総合支援センター運営協議会(年3~4回)のうち、1回を協議体の内容として実施。10名の運営委員から意見をいただく。
- ◆第2層協議体:なし
 - ※日常生活圏域は3圏域
 - 包括数は直営1(市/基幹型・機能強化型包括)、委託3(社会福祉法人2・医療法人1)
- ◆第1層生活支援Co:2人(市/直営)
- ◆第2層生活支援Co:包括いちい…1人、包括さくら…2人、包括わかば…1人

令和4年度以降の取組

- ◆包括との情報交換会で生活支援Coの回を設け、定期的に情報交換会を開催
 - ⇒地域資源(買い物・生活支援サービス・集いの場)のリスト化
- ◆買い物情報発信事業
 - ⇒商工会や市内店舗等の企業へ働きかけ、買い物支援サービスを提供している企業をまとめたリストをホームページに掲載
- ◆各包括生活支援Coと社協生活支援Coによる会議
- ◆地域ケア会議や自立支援型個別ケア会議の開催

伴走型支援事業にエントリーした理由

理由

- ◆各圏域ごとの地域課題のデータ化や分析、地域との連携の難しさ、どうやって生活支援サービスを立ち上げればよいのか、また、住民主体で実施するサービスとして継続できるか等の課題が挙がり事業が停滞しているため。

想い

- ◆第9期介護保険事業計画策定に向けて、根本から生活支援体制整備事業の立て直しを行いたいが、どのように行っていけばよいのか分からず手詰まり状態だったため、伴走型支援事業を通して、生活支援体制整備事業の在り方や課題の整理、今後の事業展開の仕方等を関係者間で話し合い、同じ視点で取り組めるようにしたい。

考えていたこと

課題

- ◆地域の実態と課題の把握
- ◆課題分析の仕方
- ◆委託包括との共通認識
- ◆市の目指すべき姿の共有
- ◆地域住民との連携



取り組みたいこと

- ◆地域のニーズや課題の収集・分析
- ◆関係者間での目線合わせ
- ◆包括同士での情報共有
- ◆住民の助け合いの意識
- ◆地域によっては住民同士の支え合いやつながりの意識が根付いているので、全市に広げていきたい。

1回目支援内容(10月24日)

◆市町村伴走型支援事業趣旨説明

◆市の概要説明…第8期介護保険事業計画の基本理念を基に、市の目指すべき姿、現状と課題を共有

◎市の目指すべき姿

『地域住民同士のつながりでお互いに支え合い、いくつになっても可能な限り
住み慣れた場所で安心・安全に暮らし続けられる』

『地域での支え合い活動を通して役割や生きがいを得られ、充実した生活を
送ることができる』

◆取組状況の共有と意見交換

◆グループワーク…富谷市にある社会参加、介護予防、 生活支援の3項目について考える

【参加者】

・東北こども福祉専門学院 副学院長 大坂 純 氏 ・富谷市保健福祉部長寿福祉課 ・富ヶ丘・日吉台圏域地域包括支援センター(いちい) ・東向陽台・成田圏域地域包括支援センター(さくら)

・富谷中央・あけの平圏域地域包括支援センター(わかば) ・富谷市社会福祉協議会 ・宮城県保健福祉部長寿社会政策課 ・宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議事務局



1回目支援内容(10月24日)

グループワーク

- ◆市・各包括が2グループに分かれて『住民のありたい姿を実現するために富谷市に今あるもの』を「社会参加」「介護予防」「生活支援」の3つの視点で考え話し合った

グループワークで出した内容

- ◆他課の実施事業や地域の集まり、企業の取り組み等も含めた社会資源を出し合った
- ◆社会参加の目的…孤立を防ぐ、閉じこもり予防、役割の創出、認知症予防、居場所
- ◆介護予防の目的…健康寿命の延伸、地域で暮らし続けるために健康でいること、
介護給付の減少
- ◆生活支援の目的…できるところは自分で(困っているところは支援で)、
住み慣れた地域で長く自立した生活を送ることができる、
安心して暮らせるよう地域やサービスで安否確認

1回目支援をとおして

参加者の気付き

- ◆主語は誰か、何を根拠に活動しているのかといった根本的な部分について再確認できた
- ◆今ある資源を評価する視点をもつことが大切
- ◆個々の活動ではなく、皆で考えていくことが重要となる
- ◆行政・包括支援センター・社協それぞれの立場の考えや思いを聞いて良かった
- ◆富谷市の地域づくりを進める核となる組織が集まって共通認識を深めることができた

担当者の気付き

- ◆包括内での情報共有の仕方や、正確に内容を共有することが難しい
- ◆事業計画や根拠となるデータが必要であること、誰のためにどういう目的で実施するのかという事業を展開するうえでの基本的な考え方を一緒に再確認できた

2回目支援内容(12月18日)

◆1回目ワークの振り返り

- ①気付いたこと3つ…担い手不足(担い手の高齢化、新規ボランティアの発掘が難しい等)、歩いて行ける場所での開催、参加者の固定化、サービスの移行先、興味を持ってもらえるネーミング
- ②仕事に活かせること1つ…公民館だけでなく町内会館単位で開催

◆グループワーク

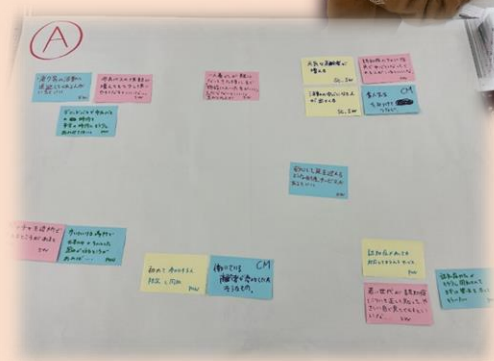
住民や地域のありたい姿に向かって話し合い

- ・課題解決のためのアイデア出し
- ・解決の優先順位を決める
- ・ありたい姿の実現のためにできること具体的に

◆今後の取組について意見交換

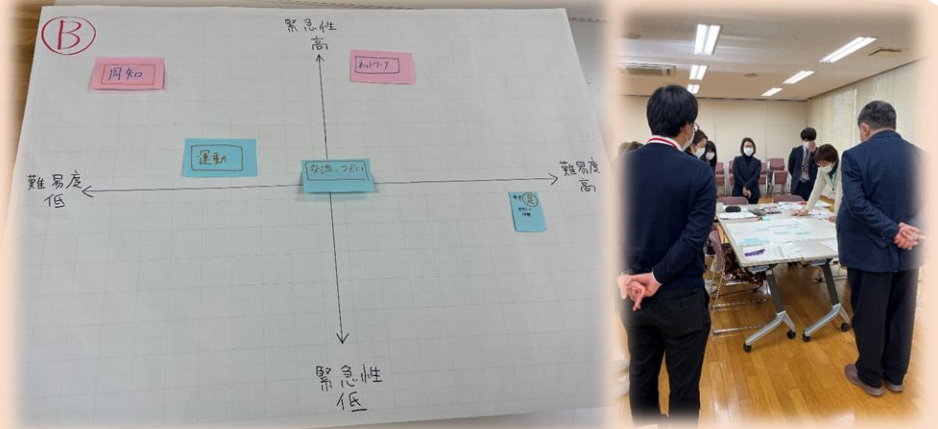
【参加者】

・東北こども福祉専門学院 副学院長 大坂 純 氏 ・富谷市保健福祉部長寿福祉課 ・富ヶ丘・日吉台圏域地域包括支援センター(いちい) ・東向陽台・成田圏域地域包括支援センター(さくら)
・富谷中央・あけの平圏域地域包括支援センター(わかば) ・宮城県保健福祉部長寿社会政策課 ・宮城県社会福祉協議会 宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議事務局



2回目支援内容(12月18日)

- ◆アイデアをマトリクスシートに当てはめ、優先度、緊急度を見える化！
- ◆具体的に取り組みそうなことを考え、組織内の連携を意識して役割を確認



住民や地域のありたい姿にむかって取り組みそうなこと (A)

実施したアイデア	どんな取り組みができそうか									
	行政			地域包括支援センター			社会福祉協議会		SC	
(例示) 住民への〇〇事業の普及・啓発	担当者			保健師	主任CM	SW	担当者			
言語聴覚の支援	行政: 広域関係機関との調整			地域包括支援センター: 言語聴覚に関する各関係者との調整で幅広い世代に広く関与			社会福祉協議会		SC	
近所での集いの場	行政: 関係機関との調整			地域包括支援センター: 今ある集いの場で介護予防についての特長や心と口の両方を活用(笑)して交流(おしゃべり)を促進			社会福祉協議会		SC	

住民や地域のありたい姿にむかって取り組みそうなこと (B)

実施したアイデア	どんな取り組みができそうか									
	行政			地域包括支援センター			社会福祉協議会		SC	
(例示) 住民への〇〇事業の普及・啓発	担当者			保健師	主任CM	SW	担当者			
ネット	行政: 広報誌、HP、LINEなど			地域包括支援センター: 関係機関、子育て支援(関係機関)、SNS?、SNS活用			社会福祉協議会		SC	
ネット	行政: ネット			地域包括支援センター: ネットを活用した関係機関との連携、関係機関との連携、関係機関との連携			社会福祉協議会		SC	

2回目支援内容(12月18日)

グループワークで出た内容

◆認知症の理解

包括⇒講座の実施…小さい単位(町内会館等)・回数多く・幅広い年代層をターゲットに
行政⇒市広報やSNSを活用して周知、関係機関との調整

◆近所での集いの場

包括⇒今ある集いの場に参加し、介護予防について周知啓発・情報提供
行政⇒関係機関との調整

◆周知

包括⇒包括だよりや教室のお知らせを配布、町内会の回覧板の活用、
SNSの開設・情報発信、子ども会や学校へ配布、CMとの集まりでの周知
行政⇒市広報・ホームページ・SNSで周知、関係機関へ配布し周知協力依頼

◆ネットワーク作り

包括⇒他課とのつながり、研修や会議等を通じて関係機関や同じ職種とつながる、
CMとの集まりの場で関係性構築
行政⇒関係機関との調整

2回目支援をとおして

参加者の気付き

- ◆地域づくりに住民が参加するためには、事業の目的や必要性、取り組むことで自分たちにどういうメリットがあるのか等を示して理解してもらうことが必要
- ◆話し合い、共有することが、具体的な案や取り組むことの優先順位の明確化、現状や課題の把握につながる
- ◆興味を持ってもらえる周知の仕方について

担当者の気付き

- ◆事業に取り組むうえで出てくる悩みを解決するため、また、生活支援コーディネーターが孤立しないよう、各包括同士で取り組み内容の情報交換や実際に見学の機会を持ち、お互いの活動の参考にすることが大事
- ◆各包括の生活支援コーディネーターが主体となって事業に携わるが、専門職の視点や一人ひとりが持っている情報を活かすため、所属内での話し合いが必要

3回目支援内容(1月25日)

◆アドバイザーからの意見

- ・お互いに同じ方向を向いて目標に取り組むためには何を思っているのかを所属内・関係機関と共有が必要
また、他での取り組みを知ることが大事
- ・一緒に取り組む＝相手を育てること
- ・動機付けは視覚に訴える(＝具体的なビジョンが見えやすい)

◆グループワーク・意見交換

- ・3グループに分かれ、それぞれの立場から取り組みそうなことを話し合い



【参加者】

・東北こども福祉専門学院 副学院長 大坂 純 氏 ・富谷市保健福祉部長寿福祉課 ・富ヶ丘・日吉台圏域地域包括支援センター(いちい) ・東向陽台・成田圏域地域包括支援センター(さくら)
・富谷中央・あけの平圏域地域包括支援センター(わかば) ・富谷市社会福祉協議会 ・宮城県保健福祉部長寿社会政策課 ・宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡協議会事務局

3回目支援内容(1月25日)

グループワークで出た内容

◆集いの場(サロン)の新規 設立や既存の場を活性化

包括

- ・地域で出前講座を実施し、住民とのネットワークを作る
- ・移動スーパーが来る場所等、人が集いやすい場所でのサロン開催

社協

- ・ボランティアセンターで担い手のマッチング

包括・社協・市

- ・周知、後方支援

◆一人暮らしの生活を継続

包括

- ・NPOやボランティアとの協力

社協

- ・民生委員や地域のキーパーソンとの連携

- ・集いの場等で関係性を作る

市

- ・他課とのつなぎ、民生委員と連携、データに基づいた分析結果の共有

⇒気にかけてもらえる人を多く作る

◆ボッチャを通じた交流の場

包括

- ・企業と協力、町内会へ周知、住民へ個別に声かけ

社協

- ・周知

市

- ・周知、町内会回覧、団体や事業所に声かけ

3回目支援をとおして

参加者の気付き

- ◆所内の共有と対話
- ◆様々な機関と横のつながりを持ち共有しながら取り組むこと
- ◆他機関と比較し検討する時間を設けること
- ◆今あるものを有効活用すること
- ◆チームで取り組むこと
- ◆包括・市・社協等各部門の強みを活かせるようお互いを知ること

担当者の気付き

- ◆ハードルが低く実現しやすい案が出たため、まずは恐れず実施し小さなことから積み重ねて住民と関係性を作ること
- ◆話し合うことで具体的でより良い案となるため、日頃から意見交換をすること

これまでの支援をとおして

気付き

- ◆生活支援体制整備事業の目的の再確認
- ◆思いや考えの共有と共通認識
- ◆既存事業の評価
- ◆関係機関の情報共有の仕方

それぞれの变化

<市担当者>

- ◆他課からの定量的データ等の情報を包括を含めて共有

<関係者>

- ◆横のつながりを持ち、お互いの事業内容や手法等を参考する

これまでの支援をとおして

今後の取組

- ◆既存事業の評価・見直し
- ◆包括同士で出向き取り組み内容等を参考にする
- ◆自分事として地域の課題を住民に認識してもらうために地域へ出る
 - ・地域の核となる人とつながり
 - ・ニーズの把握、住民が活動に取り組むことのメリットの提示
 - ・住民向けに分かりやすい説明をする工夫
- ◆他課と事業で連携できそうなものの把握、包括と他課のつなぎ